

A：岩手県コース
出石 昌弘（1966・経営）

平成23年3月11日 午後2時46分、テレビに映し出された東北地方を襲った地震による津波の状況は、今も脳裏を離れない。時間とともに、津波の範囲は拡大し、日が経過するとともに被害は膨大になった。このような誰もが予想しなかった大惨事、大きな被害が発生した地震と津波の恐ろしさは今も続いている。今年の3月21日、第84回選抜高校野球大会の開会式で、石巻工阿部主将の行った選手宣誓のなかに「人は誰でも**答えのない悲しみ**を受け入れることは苦しくてつらいことです。」という言葉があった。人はいろいろな悲しみに遭遇するが、その悲しみについて説明できない状況＝まさにこの大震災の被害に遭った人々の悲しみ、そのような悲しみの大きさ・複雑さを言ったものと思います。震災から1年10ヶ月を経過し、マスコミを通じてみるかぎり復興は相当進んでいるように判断していたが、今回現地を訪問し、惨事のあとを見せて頂き、今更ながら被害の大きさと、それ以上にその回復にはまだまだ時間がかかるものと感じました。今回のツアーを通じて、私達はこの惨事を風化させることなく、復興に関して日本全土がいろいろな協力をつづけなければならないと痛感しました。